

第5章 学生生活

I. 経済経営研究科経済学専攻

《学生生活》

〔達成（到達）目標〕

定年後のシニア層が急増し、社会人大学院生が増え経済環境が厳しさを増す中、経済的支援に工夫を凝らし、心身のケアを促すアドバイスや配慮を行い、入学時の目標を達成できるように支援する。

1. 学生への経済的支援

〔現状の説明〕

潜在的に学び欲求の高い団塊世代が定年を迎えるなか、彼らをはじめとするシニア層への授業料減免制度を制定した。具体的には2009年度からスタートすることとなる。また、各種研究奨励金の整備も進めている。

〔点検・評価〕〔長所と問題点〕〔将来の改革に向けた方策〕

授業料減免制度や研究奨励金制度が充実する中、その全体像と活用ポイントをわかりやすく提示する必要がある。

2. 各種奨学金の学生への情報提供

〔現状の説明〕

各種奨励金については掲示板に示すとともに、インターネット上でも開示している。さらに、各教員にもインターネットで連絡している。

〔点検・評価〕〔長所と問題点〕〔将来の改革に向けた方策〕

院生に対しては、授業を通して教員から情報提供することが大切になってきている。

3. 学生の心身の健康保持・増進及び安全・衛生への配慮

〔現状の説明〕

働きつつ学ぶ院生が増えるなか、授業のなかでも彼らの心身に気をつけるようにしている。少人数の双方向型の授業ゆえ、教員はオープンな姿勢で授業に臨み彼らと交流するように配慮している。

〔点検・評価〕〔長所と問題点〕〔将来の改革に向けた方策〕

学生の深層を的確に理解するよう努めている。

II. 経済経営研究科経営政策専攻

《学生生活》

〔達成（到達）目標〕

大学院生が不安・心配なく研究に励むことができるように、学生生活を支援する制度を設けることが必要となる。たとえば、学習支援として履修相談・研究指導、経済的支援として奨学金の充実化、また健康・進路についての相談、情報提供等の支援制度を適切に運用することによって、大学院生は安心して研究に専念できると考える。

1. 学生への経済的支援

〔現状の説明〕

大学院生への経済的支援は主に奨学金により行われており、日本学生支援機構奨学金のほか、地方公共団体や民間育英団体によるもの、本学独自の大学院奨学金がある。また、2007年度より学生研究奨励金制度を設けて経済的支援を行っている。そのほか博士後期課程特別研究生奨学金制度、留学生授業料半免、協定企業授業料減免、一科目留年生の授業料減免（学費納付規定第16条）、教育訓練給付金制度指定講座への参加など様々な支援に取り組んでいる。

〔点検・評価〕〔長所と問題点〕

日本学生支援機構奨学金をはじめ各種奨学金制度により、経済的支援が受けられる仕組みになっていることは評価できる。また、学生の研究費として、2007年度より学生研究奨励金制度を設けたことも評価できる。しかし、経済的な理由により修学が困難な大学院生にある程度満足できるほどの給付が行われているものではない。

〔将来の改革に向けた方策〕

特に留学生に限ることであるが、多くの奨学金に高倍率の応募があり、厳しい選考が行われていることを考えると、卒業生や企業訪問等を行うなど資金提供の呼びかけを行って奨学金を充実化させていかなければならない。

2. 各種奨学金の学生への情報提供

〔現状の説明〕

各種奨学金については大学院入学時のオリエンテーションで全体的な説明を行ない、その大綱を大学院要覧にも載せている。また、各奨学金の募集要項が発表されると、それを大学院の掲示板に募集が終わるまで掲示している。

〔点検・評価〕〔長所と問題点〕

入学時に各種奨学金についての全体的な説明を行い、また大学院要覧にも奨学金に関する情報を掲載している。さらに大学院の掲示板にも各奨学金の募集要項を掲示しており、院生は常に気をつけることが必要である。

〔将来の改革に向けた方策〕

本学には、学生と教職員の共有情報システムとしてCCSが機能を発揮している。しかし、大学院はそのシステムを利用できない状態にある。学部の学生と同じく大学院生もCCSを通じて奨学金だけでなくあらゆる情報が入手できるように、早急にそのシステムを導入すべきである。

3. 学生の心身の健康保持・増進及び安全・衛生への配慮

〔現状の説明〕

学部の学生と同じく、大学院生も年1回の健康診断を義務付けている。しかし大学院生の中には社会人が多く、彼らは勤め先の企業等で実施される健康診断を受けていることから、現在は大学での健康診断を受ける大学院生が少なくなっている。

〔点検・評価〕〔長所と問題点〕

身体の健康保持・増進のため、大学院生は年1回の健康診断とともに学部生と同様に大学の保健室を利用することができる。大学院生は、研究上の悩み、進路選択の悩み等からの精神的なストレスが多いと思われる。そのような精神的ケアのため、演習指導教授が個別に配慮し相談に応じている例が多いが、それには限界があり全学的に組織的な取り組みが必要である。

〔将来の改革に向けた方策〕

大学院生に研究上の悩み等からの精神的なストレスが多いことを勘案し、臨床心理士がいる学

部の学生相談室を大学院生も利用可能にする等の措置を講ずるべきである。

Ⅲ. 外国語学研究科

《学生生活》

【達成（到達）目標】

大学院生は、研究活動を本分とし、専門的知識を修得することにより研鑽を重ね、修了後はそれらを基盤にした社会的貢献が期待される。この目標の達成のためには積極的な研究活動は無論、その基盤となる健康管理、経済的基盤の安定等が不可欠である。健康面、経済的支援は定期健康診断、各種奨学金の設置により行われている。健全な学生生活に不可欠な経済面、健康面での支援、管理は制度として存在するが、さらなる充実が今後の課題と思われる。

1. 学生への経済的支援

【現状の説明】

日本学生支援機構等の学外奨学金以外に本学独自の制度として「大学院奨学金」制度が存在する。また外国人留学生を対象とした私費外国人留学生授業料減免制度も存在する。さらに大学院生の研究活動を促進する目的で「大学院生研究奨励金」を設けているが、本年度は申請者が無かった。

【点検・評価】【長所と問題点】

2008年度は学内奨学金の受給者は2名であった。また、日本学生支援機構奨学金受給者は2名、日本学生支援機構私費外国人留学生学習奨励金受給者は1名であった。外国人留学生授業料減免制度を利用した学生は1名であった。学内独自の制度を設けている点は評価に値する。また大学院生の研究活動を促進する意味で研究奨励金を設けている点も評価に値する。

【将来の改革に向けた方策】

経済的支援は学業を継続するに当たって経済的不安を取り除き、研究活動を保証する意味合いを持つ。さらに研究活動の活性化を図るために、大学院生研究奨励金を活用した研究活動の活性化は検討課題である。

2. 各種奨学金の学生への情報提供

【現状の説明】

入学時のオリエンテーションおよび掲示板での案内を行っている。

【点検・評価】【長所と問題点】

現状で特に問題はないと思われる。

【将来の改革に向けた方策】

学部生はCCSを使った情報提供を利用できるが、大学院はこのシステムを導入していない。掲示板による掲示以外にも既存の学内のシステムを利用した情報の流し方が利用できれば、学生の利便性はさらに上がると思われる。

3. 学生の心身の健康保持・増進及び安全・衛生への配慮

【現状の説明】

毎年春の集団検診が学生に課せられており、健康管理はこのデータをもとに行われる。また、学内には保健室を設け担当者が常駐している。また教室、自習室は業者により定期的な清掃が行われている。

〔点検・評価〕〔長所と問題点〕

組織的な健康増進に関する取り組みは無く、年に一度の定期健康診断の結果をもとに各自健康管理にあたっている。現状より踏み込んだ健康管理に大学として組織的に取り組むべきか検討に値する。

〔将来の改革に向けた方策〕

研究生活は精神的にも大きな負担を抱えるものであり、将来的には定期健康診断でははかることのできない精神面での支援も検討課題となろう。